

●5月のひとコマ



<1歳児:探索・世界を広げる>



<2歳児:色水遊び>



<年少児:体育指導>



<年中児:芋の苗植え>



<年長児:絵の手紙>

見えない相手とどう付き合っていくべきか

4月下旬から5月初旬にかけて登園自粛期間へのご協力をいただきありがとうございました。本来であれば家族みなでお出かけしたり、普段できないようなことをしたりと、非日常感を存分に味わっていたであろうゴールデンウィーク。私にとってのいつものゴールデンウィークは休みに入る何日か前くらいからいそいそとイベントなどをチェックし始め、家族で日帰りお出かけを何度かするというのがお決まりパターンではありましたが、まさかスーパーにしか出掛けることのないゴールデンウィークを迎えることになるとは夢にも思いませんでした。

「買い物してくる」と家族に告げて家を出ようとする時、いつものように当然自分も一緒に行くとはばかりに急いで靴下を履こうとする娘。あまり大人数で買い物に行くのもなあと思い、「ごめん……今は一緒に行けないんだよね……」と伝えると、小さな目から大きな涙がぼろり。心苦しい気持ちを引きずりながら一人車を走らせるのでした。

目には見えないものが相手なので、子どもにとっては何に気を付けるべきで、何をしたらいけないのかがやはりわかりにくい話ではあります。とにかく今わかっていること、手洗いをする・咳エチケットなどをあたりまえのように行っていくしかないのでしょうか。

新型コロナウイルスが拡がるのと時を同じくしていろいろなデマを耳にするようになりました。わからないものへの不安や恐怖心は大人でも同様に抱くものです。ただ、そういったデマが度を過ぎたものになったり、気づかぬうちに誰かを傷つけていたりすることも数えきれないほどあったように思います。今まさに、目に見えないものと相対するわれわれは、見えないながらも相手のことを少しでも知ろうと努力し、誤った情報に踊らされることなく正しく構えることが必要とされているのでしょうか。

それはきっと人と人との関係でも言えることなのだと思います。目の前にいない、ましてや直接会ったことのない相手にもパソコンやスマホさえあれば簡単に言葉を届けられる時代。その言葉によって、目に見えていない「誰か」がどういう気持ちになるだろうか。見えないからこそ、見ようとする姿勢(想像力や思いやる心)が信頼と安心の輪を広げていくのだと思います。登園自粛期間前後において、保護者・地域・企業の方から温かい言葉や寄附をいただきました。私たち職員もまた、そういった温かい気持ちや言葉に支えられて生活している「ひとり」です。子どもたちにも一層の温かさを届けていける「ひとり」であり続けるようこれからも丁寧に保育に臨んでいきたいと思っています。